

義認

1. 信仰によって、キリストに結合され、得られる重要な有益は何ですか。

キリストを信仰によって受け入れることで、キリストに結合され、得られる重要な有益は義認です。義認は救いの頂点として、キリストを救い主と受け入れる者に、神が義認と宣言してくださることです。それによって私たちは罪責と私たちのすべての罪から救われ、神の目に義なる者と見なされます。それは、私たちの救い主、キリストの義が私たちに転嫁されたからです（ロマ 8:30、33-34、I コリント 1:30、ペリピ 3:9）。

2. ただ信仰によって、義と認められようとする者の霊的状态はどうですか。

ただ、キリストを信じて義と認められようとする者は、先ず、律法を通して自分が罪人である事実を徹底して悟ります。その人は、自分のどのような行為によっても、義と認められないことを良く悟っています。勿論、その人は自分の罪が赦されなければ神の怒りから、審判から、抜け出られないことを知っています。従って、自分の不義をおおう義が、キリストの中にあることを知り、罪の赦しの恵みが、ただキリストの内にのみあることを、徹底して悟って体験しています。このような者は、キリストのみ頼りながら出て行きます（ロマ 3:20、28）。

3. キリストの義が、どのようにして罪人を、義とさせるのですか。

キリストは神として本来、義なる方です。しかしキリストは人性を持ち、神の律法を完全に従順することで、また、私たちの罪のために苦難を受けられ、十字架で血を流し、呪いを受けられたことで義を確保されました。それで、父なる神がキリストを信じる者たちに、キリストの義を転嫁させてくださるのです。従って義認は、キリストを信じる罪人が義となれるのではなく、父なる神が、その人を義と認めてくださることです（ロマ 3:26-27）。父なる神が、死んだ者と生きている者の裁判官として行われることです（詩 75:7）。

4. 信じる者は、義の注入によって、義となれるのですか。

ロマ教会は、義の注入によって義となれると主張します。しかしそれは、間違った教えです。義認とは、神が、キリストを信じる罪人に、義と認めると宣言されることです。これはまるで法廷で、罪を赦免した後、二度とその罪について、どのような付け加えもせず、永遠の命に対する権利を与えることと同じです。これは純粹に、そして、ただキリストの従順のおかげです。従って義認は、法廷的行為として（詩 143:2）罪の定めとは反対になることです（ロマ 8:33-34）。

5. キリストの義が、どのようにして、信じる者を、義とさせるのですか。

信仰によって、キリストに結合された者には、キリストの内にある義が伝達されます（ロマ 5:19、10:4）。まるでアダムの罪が、すべての人に転嫁され、罪人とされたように、キリストの義が信じる者に転嫁され、伝達されるのです。

6. 神はなぜ、このような方式で、罪人を義認となさるのですか。

罪人は、律法を完全に守って自分を義とすることはできません。むしろ、律法を続けて違反し、罪を増加させるばかりです。それゆえ神は、罪人を義とする方法のためにキリストを仲介者と定めたのです。キリストは人間の体を着て、この地に来られ、罪人たちの負債を負い、律法を完全に守って十字架で死なれたことで、義を確保なさいました（へブル 10:19、黙 12:1）。それゆえ罪人は、自分是不義な者だと悟って、義を得るためにキリストを信じる者には、父がキリ

ストの義を転嫁させてくださるのです。これは、父と子との間、創造の前からの約束されたことです。私たちはこのことを贖い契約と呼びます(ヨハネ 17:4-5)。

7. キリストの義が信じる者に、転嫁された事をどのように認識できますか。

信仰とは、キリストの義をつかむ道具です(ロマ 5:1、10:10、エレミヤ 23:6)。この時の信仰は、まるで、物乞いする者が、救済品を取り、獲得するようにキリストをつかむことです。そのようにして、キリストをつかんだことで、キリストに結合され、キリストの内にある義が、信じる者に転嫁されます。このように転嫁された義は、人徳としての義ではありません。これは法的な義であって、神との関係における義です。この時、義と認められた者は、良心から湧き出る罪の咎めから解放され(ヘブル 9:14) 聖霊による慰めを得られます(ロマ 8:15)。

8. 義認とは、私が義となれたことを、信じることですか。

違います。義認とは、信じたことの効果と実としてついて来るものです。信じる前に、先に、義となれることはないからです。つまり、私が赦されたのは、信仰によって赦されるのではないのです。キリストが唯一の救い主であることを認め、キリストに安住することによって、赦しを得られるのです(マタイ 16:16、ヨハネ 20:31、ロマ 10:9、1 ヨハネ 4:15、5:1、5)。

9. 義認は、何によって構成されていますか。

義認は、罪の赦しと義の転嫁によって構成されています。キリストの義の転嫁によって、罪人は罪責から清くなりました。それは、その罪が赦されたからであり、罪の審判から自由になり、神が恵みによって受け入れられたからです。これは、キリストの苦難と死によって獲得されたことです。キリストの死によって神は罪人の罪を赦免して、それ以上罪人として思わないのです。これは、神の純粹な恵みの行為です。

10. 私たちが義となれたことを、誰が証しますか。その効果は何ですか。

キリストの血が証しし、聖霊が私たちの義認を証しします（Iヨハネ5:6-8）。それによって私たちは恵みの御座に大胆に出て行けます（エペソ3:12、Iヨハネ3:21）。また、悪魔の偽りの訴えからも自由です。そして終わりの日の審判をも恐れません（使徒3:19）。

11. 信仰によって義と認められた者に現れる、特徴は何ですか。

信仰によって義と認められた者には、義とされたその信仰を持ち、キリストを続けてつかむ特徴として現われます（ロマ1:17）。また、全き心でキリストにつき合わされ、キリストを頼りながら、神に続けて出て行く特徴を持っています。信仰によって義とされた者は、キリストの衣を着て、汚れる罪から遠ざけます（ロマ13:14）。

12. 義と認められた者たちの罪を、神は、ご覧になりませんか。

違います。神は義とされた者たちにある罪をご覧になります。救われたので、道徳的に善なる生活を追求しなくても良いと主張する、道徳律廃棄論者は、義と認められた者たちの罪を、神は見ないと主張します。このような主張は、義認だけで救われるということで、一度救われた者は、永遠の救いを受けるので、聖化に心を配らなくても構わないと主張します。しかしそのような教えは、間違っています。神は、義とされた者たちにある罪をご覧になり、それに対して責め、時には怒りを下します（出4:14、ダニエル9:20、民12:8-9）。

神は信者たちの罪に対して頻りに審判なさいます（II列王記12:10、11、14、1コリント11:30-32）。さらに義認は、聖化と連結されます。信仰によってキリストにつき合わされる時、同時に得られる救いの恩恵です。従って真に義と認められた者は、罪と戦い、聖くなることを追求するようになっています。聖化も、

救いの恩恵に含まれるから（ヘブル12:14）義認だけで救われると主張する道德律廃棄論者は、聖書の教えから外れた偽りです。

13. 義認に対する間違った教えには、どのようなものがありますか。

ロマ教会は、善行があつてこそ、恵みと共に作用して義と認められると主張します。勿論、彼らは、義の転嫁ではなく、義の注入だと話します。結局、ロマ教会は行為によって義と認められると主張することであり、その義認も、内在的なものだと主張します。しかし、私たちは、靈的無能によって、義と善を行うことができません。また、ロマ教会の教えは、キリストを全的に頼る必要がないというのです。しかし私たちには、内在的な義がないので、やはり罪を犯します。従って、ロマ教会の教えは間違った教えです。

一方で、福音的アルミニウス主義は、義認の二つの構成要素の中、罪の赦しだけがあると主張します。つまり、行為があつてこそ義と認められると主張します。これもやはり間違った教えです。キリストを信じた以降にも、私たちはやはり罪を犯すからです。それゆえ、行為では決して、義人となれないのです。

義認に対する、もう一つの誤りは、ハイパーカルヴァン主義 (hyper-Calvinist) の主張があります。彼らは、予定論を誤用して、選ばれた者は信じる以前から義と認められると主張します。この教えは、聖霊の有効召命によって、信仰が発生することを否定する間違った教えです。最近「パウロの新たな視点」(New Perspective on Paul) という教えがあります。これは、信仰によって教会に介入した以降に、律法を守ったかどうかによって、義と認められたり、また義と認められなかったりするということです。この教えもやはり間違っているもので、私たちが決して、律法を完全に守ることはできないからです。このように義認に対する誤りは、律法主義と道德律廃棄論などから、みな出て来ます。